「初めての病院祭」

国立病院機構東京病院
副院長
庄司　俊輔

筆者の勤務する国立病院機構東京病院（以下：東京病院）は，平成24年１月４日に，国立療養所清瀬病院と国立東京療養所が，昭和37年に統合し名称変更してから，ちょうど50周年を迎えた．これを機会に「病院祭」をしようということになった．何しろ病院初めての行事なので，まずは職員全員にアンケートすることになり，その結果に基づき，住民検診・健康相談部門，講演部門，職場紹介部門，アトラクション部門，デコレーション部門，広報部門，バザー・出店部門およびスタンプラリー部門の８部門をワーキンググループとして組織し，準備を開始した．

まず，バザーの開催準備．出店の一角で保育所から製造器を借りてきて綿菓子とポップコーンの無料配布をしようということになった．それからお菓子のつかみ取り．東京病院ネーム入り風船配り．スタンプラリーの達成者へくじで景品贈呈．検診では「血管年齢測定」と「骨密度測定」を目玉に決定．病院内の士気を高めようと，病院内全部署（病棟のみならず，事務部や洗濯場などすべての職場）で部署紹介ポスターを作成して展示（その中から院長賞やグランプリ賞を選定して表彰）．そして，最後の宣伝手段が，開催２日前の新聞朝刊へのチラシ挿入．清瀬市を中心にＡ４版のチラシ（写真１）を４万５千枚配布した．

さて，当日の１月28日．来場者数の少なさへの心配をよそに，開場１時間前にはすでにバザー狙いの客が100人以上来場．その後も来場者は増え続け，開始時刻の午前10時には，玄関付近がバザー待ち，綿菓子・ポップコーンの列，入場受付で，入り口付近は立錐（りっすい）の余地もなくなった．午前11時にアトラクション開始（写真２）．午前11時半に受け付け入場者数が千人を突破した．そのころには，人気の「血管年齢測定」と「骨密度測定」の列が玄関付近まで延び，やむなく整理券の発行を開始した．お菓子の長蛇の列に並んで退屈そうな子供たちには着ぐるみ三人組が愛想を振りまき，われわれも風船を配るなど走り回った．怪我人が出ないかどうかが本当に気がかりだったが，午後になり会場も落ち着きを取り戻し，午後４時に無事終了した．その後全職員がホールに集合し，職場紹介ポスターの表彰などで盛り上がってから散会した．

さて，受付でプログラムを渡しながら数えた入場者数は1,731名（お菓子欲しさに数回並んだ子供もいたようで少し減るかも）．車いすや，点滴台を持ち見物していた入院患者も数多く，参加職員は100名を超えているので，総参加者数は２千人を超えたと推定される．バザーと出店の売り上げの合計159,168円は，全額を東日本大震災義援金として日赤に寄付した．

以上，「初めての病院祭」の報告である．このあと，患者数が目立って伸びたわけではないが，参加した職員の間の親密さは増したようにみえる．今後もこのような職員や近隣住民との連携を強める企画を考えていきたいと思う．

（写真１）新聞チラシ

（写真２）アトラクション